

「市議会だより」の抜本的改革を求める請願書

2016年2月19日

明石市議会

議長 絹川和之様

(請願者) 政策提言市民団体 市民自治あかし

請願の趣旨

「市議会だより」は、市民と市議会を結ぶ重要な情報媒体です。議会基本条例に明記された市議会の役割である「行政に対する監視・評価機関、多様な民意を反映する合議制の意思決定機関」として、市議会と議員一人ひとりがどのような活動を行っているかを市民に知らせる貴重な情報媒体です。

しかし、残念なことに、現行の「市議会だより」は市民が目を通して、議会と議員の活動が具体的にできてきません。議会活動の基本は、議員一人ひとりがどのような質問をし、提案された議案について市民に代わってチェックを行うことだと理解しています。「市議会だより」を読んでも、だれが、どのような観点から、どのように質問し、どのような答弁を得て議案の内容や行政の問題点をたじたのかが、全くといっていいほど見えてきません。紙面の大半は行政施策の説明に割かれ、議員の質問は単なる「聞き手」として項目代わりに使われているだけです。「市議会だより」というよりも「行政広報」の媒体になっています。

議会と議員の活動を具体的に市民に知らせる情報媒体として、内容と編集の仕方等を抜本的に改善していただきますよう、お願いします。

請願の項目

「市議会だより」の内容と編集・制作の仕組みを抜本的に改善し、本会議と委員会審議の種別を分かるようにするとともに、発言議員名と発言主旨を明確にして、答弁内容は質問の主旨に対応した部分に絞って記述するよう改革してください。

請願の理由

上記の請願趣旨に述べた「期待される市議会だより」にするためには、「市議会だより」を読めばどの議員がどのような質問をし、市政を具体的にチェックしているのかが市民に伝わるようにする必要があります。

議会を傍聴していれば、市長が提案した議案や市政のさまざまな問題点について突っ込んだ質問や追及、提案が行われることもあるのに、「市議会だより」ではその影は全くと言っていいほど見えません。これでは大半の市民から「市議会も議員も無用の長物」と誤解されかねません。

議会基本条例で「議会のあるべき姿」を宣言した議会らしく、議員と議会の活動が具体的に目に見えるように「市議会だより」の内容を改めることが急務だと思います。

以上